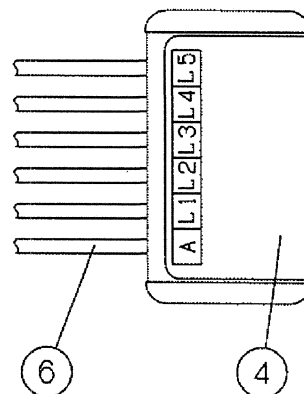
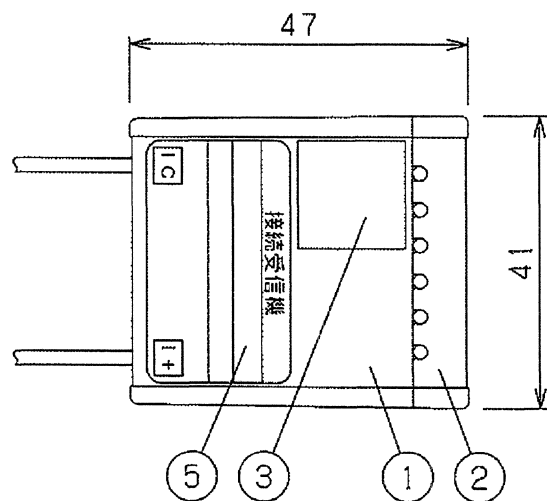


番号	名 称	摘 要	数量
1	ケ ー ス 本 体	難燃性樹脂	1
2	ケ ー ス カ バ ー	難燃性樹脂	1
3	検 定 銘 板		1
4	社 銘 板 A		1
5	社 銘 板 B		1
6	リ ー ド 線		8
7	プ リ ン ト 基 板		1

仕 様	
検定型式番号	中第9～17号
定 格 電 圧	DC24V
定 格 電 流	作動時4mA、監視時2.6mA
接続受信機	2PDO, 2PHO, 2PKO, 2PFシリーズ
外部配線抵抗	50Ω

塗 装		記 号	LPM1
質 量	約40g	尺 寸	1/1
日 付	2002・6・14	品 名	P型2級発信機用中継器 (作動検出アダプタ)
図 番	E070067	ニッタン株式会社	

LPM1・P型2級発信機用中継器の接続について

既設配線対応(発信機の蓄積解除線不足の場合)

1. 蓄積型の受信機は発信機接続に蓄積解除線(A線)が必要

- 蓄積型の受信機は感知器動作時は蓄積が開始され、一定時間感知器の動作が継続しなければ火災発報にはなりません。発信機動作の時は、火災確定信号入力として蓄積を解除し、直ちに火災発報し、地区音響装置を鳴動させなければなりません。
この為、受信機と発信機の接続には、発信機動作の蓄積解除線(A線)が必要となります。
- 改修工事等で既設の非蓄積型受信機を蓄積型の受信機に交換した場合、この発信機の蓄積解除線を幹線に増設するには困難な場合があります。
- この場合、LPM1型P型2級発信機用中継器を受信機内に取り付け、地区回線(L, C)に接続することにより、幹線配線本数を増加させることなく対応する事ができます。

2. 地区回線(L, C)の残り電圧により発信機と感知器を区別

- 感知器(作動確認灯付きのみ可)は動作時でも地区回線(L, C間)に作動確認灯点灯のため4-7V程度の残り電圧があります。
これに対して発信機は動作時、地区回線(L, C間)は接点動作のため残り電圧はないため(0V)、感知器動作と区別することが出来ます。(中継器は基準電圧約2.3Vで比較しています。)
- 従って感知器は、全て作動確認灯付きの感知器に交換する必要があります。

3. 接続方法

